

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4291100016
法人名	株式会社ケアサービス・久
事業所名	グループホーム夕陽の丘
所在地	長崎県西彼杵郡長与町岡郷1669番地1号 (電話) 095-813-4385
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年12月17日

【情報提供票より】 (平成20年11月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	10人 常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 4.3

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月12日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1		名	要介護2	2名	
要介護3	4名		要介護4	3名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 85.11歳	最低	80歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎百合野病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者が呼ばれ慣れている名前呼び、尊敬の念を持った言葉かけを行っている。門限や消灯時間は定めず、我が家としてくつろげる支援をしている。「夕陽の丘新聞」の作成の際には毎回家族に写真を見せ状況報告をとりながらの掲載同意を行っている。家族の来訪も多く、事業所と家族の結びつきは密になっている。リハビリパンツや尿取りパッドを外す取り組みや歩行強化の支援を行っている。一日20種類の食材摂取を目標に、菜園を利用し、旬のバランスのとれた食事をめざしている。空と海と山の季節感あふれる大村湾を一望できる居間で、亀や犬とふれあい、利用者の歌声が響き、この地域で「皆、笑顔で暮らす」明るいグループホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前は自己評価を一部の職員で行っていたが、今回は全職員で自己評価に取り組み共有している。家族からの意見要望の収集として玄関入口にご意見箱を設置している。研修報告書を作成し、資料と共にファイリングし、いつでも閲覧できるようにしている。献立記録表を作成している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	主任が中心となり職員の意見を考慮し、施設長の確認のもとに自己評価を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に家族、地域の方、町担当者が出席している。主な討議内容はグループホームの活動状況、新人職員の紹介、外部評価の受審の報告となっている。外部評価の結果についても内容の報告及び改善に向けて、参加者の要望や意見が聴けるような取り組みが期待される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議、家族会(3・4ヶ月に1回)での聞き取り及び「ご意見箱」の設置を行っている。「夕陽の丘新聞」にて行事報告、職員紹介などを行っている。金銭管理の報告がされている。玄関及び重要事項説明書に苦情受付担当者や苦情解決責任者、第三者機関の苦情受付窓口の明示がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	散歩の時に挨拶を交わしたり、地域の方が参加できるような行事を行っている。運営推進会議に出席される地域の方との協力関係ができてきている。地域の方と七夕の短冊に願い事を書き飾り付けたり、クリスマス会、運営推進会議への呼びかけ、相撲大会への参加を通して交流を図っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定において地域との結びつきを重視し、地域活動に積極的に参加する方針を掲げ実践している。職員へ日々の行動指針となるこの地域で「皆、笑顔で暮らす生活を」等の6つの理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新職員の入社時や、職員の利用者への対応が理念に基づいたものであったかどうかを、ケース毎に、月1回のケア会議において話し合い再確認している。具体的なケアとして「ゆっくり、ゆったりと目を見つめて話す」等の理念の取り組みを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年間行事に地域の方が参加できるような取り組みがあり、開設当初よりも地域の方との交流ができてきている。地域の方と七夕の短冊に願い事を書き飾り付けたり、クリスマス会、運営推進会議への呼びかけを行っている。施設長が地域の少年相撲大会の手伝いをしており、利用者も見学し交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	主任が中心となり職員の意見を考慮し、施設長の確認のもとに自己評価を行っている。前回の外部評価改善項目についても、改善計画シートを作成し、できる事からの改善に向けた取り組みがされている。		

グループホーム夕陽の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催頻度は3・4ヶ月に1回であるが前年度よりも開催回数が増えている。討議内容はグループホームの活動状況、新人職員の紹介、外部評価の受審の報告となっている。	○	運営推進会議は2ヶ月に1回開催できるように、議題の検討を行い、外部評価の結果についても内容の報告及び改善に向けて、参加者の要望や意見が聴けるような取り組みが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回、長与町のケア連絡会に参加している。その場にて、長与町担当者との問題検討、意見交換を行っている。また、必要に応じ、電話での問題解決、助言等が相互において行われている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者と家族とのふれあい重視の観点より、家族の同意のもとに、利用料はなるべくグループホームへ持参していただくようにしている。その場で利用者の近況報告を行っている。「夕陽の丘新聞」にて行事報告、職員紹介などを行っている。金銭管理の報告は出納帳作成で家族の確認印を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会(3・4ヶ月に1回)での聞き取り及び「ご意見箱」の設置を行っている。日々家族の来訪も多く、口頭での要望や意見等を聴く事が主であり、施設長を中心に要望等の解決がなされ職員会議で職員に伝えている。玄関及び重要事項説明書に苦情受付担当者や苦情解決責任者、第三者機関の苦情受付窓口の明示がされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職は少なく、退職時には家族への報告及び利用者へは不安が軽減されるような説明の工夫を行っている。また、全職員が「利用者のために考えてくれる存在」になるような理念のケアに携わっている。		

グループホーム夕陽の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画はないが、県や社会福祉協議会、病院からの研修案内を参考に、職員の段階に応じて必要な研修を受講できるようにしている。また、職員の希望する研修には参加できるような配慮がなされている。研修報告や研修レジュメのファイリングを行い、職員がいつでも、閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当初から他の事業所との交流があり、現在も、合同で利用者を中心にした風船バレーボール大会を開催し、職員同士の交流がある。長与町ケア連絡会の研修時の交流もある。また、他の事業所の施設長やケアマネージャーが来訪し、利用者の状況に合ったケアの実践を見学されることがある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの生活調査票、食事嗜好調査票等の情報のもとアセスメントを行い、「笑顔で暮らす生活」がすぐできるように、初めは時間を多くとり「利用者の心の介護」ができるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活調査票より、これまでの生活歴、得意分野の把握を行い、洋裁、グループホーム横の菜園での野菜、花作りの指導をしてもらっている。グループホームを囲む山側の草刈りを利用者の指導の基に行い、我が家の環境を共に整え支え合う、家族としての関係作りができてきている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「利用者は何をしてもらいたいのだろう」と日々のケアに携わっている。生活調査票及び家族からの情報を念頭において、意見や希望をあまり話さない利用者がどのような場面で「気持ち」を言い表しやすいのかを把握するようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	全職員からの意見の提示と検討で介護計画を作り上げている。また、家族の来訪時の意見、要望等を介護計画に取り組み様になっている。また、リハビリパンツや尿取りパッドの取り外し、歩行の強化など、利用者の目標達成ができています。家族に介護計画を説明した際には、個人支援記録経過記録表に確認捺印をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1回行っている。家族の意見や職員参加のサービス担当者会議で一人一人のモニタリングを行っている。状態急変時は必然であるが、病院よりの退院後においても医師との連携をとり、その時点で見直しを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を行い、健康管理、医療活用の強化を行い利用者や家族の負担を軽減している。本人の要望を取り入れドライブや家族の要望による病院等の受診支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の要望によりかかりつけ医を優先している。それ以外は提携医療機関の月2回の往診となっている。歯科医については、各利用者のかかりつけ医への受診となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化についての文書での取り決めはなく、家族会や、職員の勉強会を含め重度化した場合の検討を行っているところである。	○	文書による重度化や看取りについての指針を作成し、事業所のできることを把握することが望まれる。重度化に向けた方針の意志固めを行い、本人や家族の意向を踏まえ、医療機関やグループホームの連携確認が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に強制するような声かけをしないよう徹底している。利用者の状態について家族と話しあう際には、各居室で行うようにしている。職員に対しては入社時に雇用契約書にて、守秘義務の誓約書を交わすようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝起きられない利用者には朝食の時間を遅らせている。レクリエーション等の参加も強制せず、職員は利用者の「良きパートナー」として見守りを行っている。		

グループホーム夕陽の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時の食事嗜好調査票により管理を行っている。菜園で採れた旬の野菜を職員と利用者が共に下ごしらえし、何を作ろうかと食への期待感を共に感じるようにしている。職員も介助をしながら、会話を含めた食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は月・水・金と決まっている。必要に応じ別の曜日でも入浴できている。時間は利用者の希望にそっている。入浴できない場合は清拭などの支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園での農作業、洋裁、亀の餌やり、犬とのふれあい、毎朝のカラオケなどグループホーム内で行える事は利用者の楽しみごととなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回ほどの全員での外出があり、車いすの方も外出している。美容室へ出かけたり、ドライブ、買い物等の支援を行っている。散歩についても、地域住民との挨拶を交わしながら行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠となっている。昼間は利用者を見渡せる場所に職員がいるように心がけ、見守りを行っている。		

グループホーム夕陽の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の夜間想定を含めた避難訓練を行い、そのうち1回は消防署の協力のもとに行っている。消防計画や避難訓練計画書、緊急時の連絡マニュアルを作成し、電話機の側に掲示し、戸惑わないような工夫がされている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は5段階評価で、個人記録に記載されている。水分摂取は介護日誌に記載されている。専門家による栄養バランスのチェックはないが、毎日20種類の食材摂取を目標に取り組んでいる。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空と海と山の季節感あふれる大村湾を一望できる居間になっている。庭には案山子を置き、昔の風情をかもしだしている。食事やカラオケ、カレンダー作り、テレビなど利用者が共にソファに腰かけゆったりとしている。遮光カーテンや床暖房の設備となっている。廊下や居室に手すりをつけている。お風呂には温泉気分を味わえる様な湯マークをつけたりしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ライター類の危険物は入所時に預かっている。他の物品は制限を設けず、その人らしい居室になるように家族と共に協力し、写真を貼る等している。居室の2部屋を夫婦部屋へ変更することができる。		

※  は、重点項目。